

令和3年度 「県内大学生が創る奈良の未来事業」 募集要項

奈良県では、平成24年度から、「県内大学生が創る奈良の未来事業」を実施しています。この事業は、多様化・複雑化する県政の様々な課題を解決するため、県内の大学(短期大学を含む)・大学院、高等専門学校に在籍する学生の皆さんから政策提案を募集し、皆さんから応募いただいた政策提案のうち、公開コンペ方式による審査で選ばれた政策提案を事業化し、学生の皆さんにも参加いただいて事業を実施するものです。

「未来は予測するものではなく、創るもの」という言葉を信じ、「奈良の未来」を共に創るため、学生の皆さんならではの視点や専門知識を生かした提案をお待ちしております。ふるってご応募ください！！

◆募集期間:

令和3年4月9日(金) ~ 6月11日(金)(必着)

◆問い合わせ・応募先:

奈良県総務部知事公室政策推進課

「県内大学生が創る奈良の未来事業」担当

住所: 〒630-8501 奈良市登大路町30番地

電話: 0742-27-8472(直通) FAX: 0742-22-8012

奈良県政策推進課HP: <http://www.pref.nara.jp/28210.htm>

1 事業の概要

県内の大学等に在籍する学生(以下「県内大学生」という。)ならではの視点や専門知識を生かして、多様化・複雑化する県政の課題を解決するとともに、県政の課題に関する検討・議論に参加いただくことを目的に、県内大学生から県政の課題に関する政策提案を募集します。公開コンペ方式の審査により選考された優秀な提案については、県内大学生及び県職員等によるプロジェクトチームで事業化に向けた検討を行い、さらに、次年度の事業実施においては、県と大学等の協働・連携のもと、県内大学生に参加・参画いただいて、事業を実施します。

2 募集及び応募

(1) 応募要件

以下の①、②の要件を満たして、応募してください。

①県内の大学(短期大学を含む)及び大学院に在籍する学生並びに奈良工業高等専門学校(以下「県内大学生グループ」という。)の4年生以上及び専攻科の学生

※ただし、事業の提案主体は「学科、研究室、ゼミ等の学生による研究グループ」(以下「県内大学生グループ」という。)とします。

※県内大学生グループのメンバーは3名以上10名以下とします。

※4及び5-(2)に記載のとおり、公開コンペで表彰された政策提案のうち、一定の基準を超えた政策提案が事業化の対象となりますので、対象となった場合、政策提案いただいた県内大学生には、事業化に向けたプロジェクトチームに参加及び次年度の事業実施に参加・参画いただきます。よって、プロジェクトチームへの参加及び次年度の事業実施に参加・参画が可能なメンバーを選定してください。

②提案分野についての専門的な知識を有し、県内大学生グループに提案内容に関する適切な助言等を行うことができる指導教官に十分な相談を行い、応募について同意を得てください。

(2) 募集内容

県が発行する「奈良新『都』づくり戦略2021」(令和3年2月発行)に掲載されている政策課題をはじめとする県政の課題に関する政策提案を募集します。

なお、県が政策提案を特に希望する政策課題を、「<別紙>県が県内大学生からの政策提案を特に希望する政策課題」に掲載していますのでご参照ください。

※「奈良新『都』づくり戦略2021」については、奈良県政策推進課ホームページをご覧ください。<http://www.pref.nara.jp/16382.htm>

(3) 募集期間

令和3年4月9日(金)～6月11日(金)(必着)

(4) 応募方法

様式1(政策提案書)、様式2(提案者等調書)、様式3(政策提案企画書)に必要事項を記入のうえ、下記「(5) 問い合わせ・応募先」にて、郵送、持参または電子メールにてご応募ください。

なお、様式3(政策提案企画書)は、簡潔にわかりやすく記載し、5ページ以内にまとめてください。

※各様式は、奈良県政策推進課ホームページからダウンロードが可能です。

<http://www.pref.nara.jp/28210.htm>

※今年度から様式への押印を廃止しました。

※郵送する場合は、配達日が確認できる方法(簡易書留郵便、配達記録のある宅配便等)でお送りください。

※持参する場合は、平日(土曜日、日曜日、祝日以外の日)の午前8時30分から午後5時15分の間(ただし、正午から午後1時までの間を除く。)にお持ちください。

※電子メールで送信いただく場合は、メールの件名に“「県内大学生が創る奈良の未来事業」政策提案応募”と明記してください。

※電子メールでの応募を希望される場合は、応募先メールアドレスをお伝えしますので、下記「(5) 問い合わせ・応募先」にお問い合わせください。

※提出いただいた応募書類は返却しませんので、あらかじめご了承ください。

(5) 問い合わせ・応募先

奈良県総務部知事公室政策推進課 「県内大学生が創る奈良の未来事業」担当

住所: 〒630-8501 奈良市登大路町30番地

電話: 0742-27-8472(直通) FAX: 0742-22-8012

※電話によるお問い合わせは、平日(土曜日、日曜日、祝日以外の日)の午前8時30分から午後5時15分の間(ただし、正午から午後1時までの間を除く。)にお願いします。

3 選考及び表彰

応募書類による事前審査を行った上で、県内大学生グループにプレゼンテーション等をしていただく公開コンペ方式による本審査を行い、最優秀賞1グループ、優秀賞2グループを選考します。また、事前審査と本審査の間には、県内大学生グループと県の担当部局との個別相談会を実施し、提案内容をより良いものへとブラッシュアップしていただく機会を設けます。

(1) 事前審査(書類選考)

提出いただいた応募書類により、県職員が書類審査を行い、本審査(公開コンペ方式による選考)に参加いただく県内大学生グループを選考します。(6月中旬頃)

事前審査の審査結果については、応募いただいた県内大学生グループすべてに通知します。(6月下旬頃)

(2) 事前審査(書類選考)の審査基準

項目	内容
新規性	・県が取り組むべき新たな課題の解決に向けたもので、かつ、過去3年間に県で同一の事業を実施していないか
発展性 ・ 継続性	・県民のニーズに合致し、事業の効果が期待できるものとなっているか ・継続性があり、今後の発展が期待できるものとなっているか
実現可能性	・県内大学生が有する専門的な知識が生かされ、具体的かつ実現可能な計画、方法となっているか ・大学が責任を持って、積極的に県と協働・連携して取り組める体制となっているか ・事業を実現するために、県内大学生(提案グループ以外の県内大学生を含む)が積極的に参加できる仕組みになっているか

※提案内容について、過去3年間に県で同一の事業を実施していないか、提案される前に県担当部局に確認が必要です。担当部局への確認については、事前に前記「2(5)問い合わせ・応募先」までお問い合わせください。

(3) 県の担当部局との個別相談会

事前審査により選考された県内大学生グループを対象に、県の担当部局との個別相談会を実施し、県内大学生に県の政策課題や施策を十分に理解していただき、提案内容をより良いものへとブラッシュアップしていただく機会を設けます。(7月中旬頃)

※可能な限り、指導教官もご出席いただきますようお願いいたします。

(4) 本審査(公開コンペ方式による選考)

事前審査により選考された県内大学生グループによる公開コンペを実施します。

各グループによるプレゼンテーション、質疑応答等を行い、奈良県知事及び有識者で審査し、最優秀賞1グループ及び優秀賞2グループを選考します。(8月下旬頃・奈良市内で実施予定)

本審査の審査結果については、応募いただいた県内大学生グループすべて(本審査に参加されなかった大学生グループを含む)にお知らせします。(8月下旬頃)

なお、別途、公開コンペの傍聴者を一般から募集し、各グループによるプレゼンテーション、質疑応答等の模様を公開します。

※可能な限り、指導教官もご出席いただきますようお願いいたします。

(5)本審査の審査基準

項目	内容
説明力	・論理的で説得力のある説明ができているか ・ストーリー性のある説明ができているか ・審査委員からの質疑に対して、的確な応答ができているか
効果性 発展性 独創性	・事業の効果が期待できるものとなっているか ・今後の発展が期待できるものとなっているか ・着眼点がよく、学生らしさ・独創性があるか
実現可能性	・県内大学生が有する専門的な知識が生かされ、事前に綿密に調査するなど、具体的かつ実現可能な計画、方法となっているか ・大学だけでなく、提案内容に関連する各機関とも協働・連携して取り組める体制となっているか

(6)表彰

公開コンペ方式により選考された最優秀賞1グループ、優秀賞2グループを知事が表彰、記念品を授与します。(8月下旬頃・本審査に引き続き実施)

4 政策提案の事業化

公開コンペで表彰された政策提案のうち、一定の基準を超えた政策提案が事業化の対象となります。なお、事業化にあたっては、次年度の新規事業となる場合のほか、県の既存事業等に政策提案を反映する場合があります。

(1)事業化プロジェクトチームの設置

次年度の新規事業となる場合は、事業化プロジェクトチーム(以下「PT」という。)を設置し、PTで検討した上で次年度の当初予算要求を行います。(8月下旬～)

①PTメンバー

政策提案した県内大学生グループと県職員で構成します。

(2-(1)-①に記載のとおり、公開コンペで表彰された政策提案のうち、一定の基準を超えた政策提案が事業化の対象となりますので、対象となった場合、PTに参加いただくことが応募の要件です。)

※指導教官もアドバイザーとして参加いただきますようお願いします。また、県担当部局企画管理室長等もアドバイザーとして参加します。

※政策提案した県内大学生のうち、PTに参加できない者がいる場合、または、学校行事等の都合でPTメンバーとして十分に活動できない者がいる場合は、当該メンバーの代わりに3名以内であれば、県内大学生が在籍する大学の同一学科、研究室、ゼミ等の学生が参加することができます。

②検討方法

定期的(月2回程度)に打ち合わせを行い、提案内容の事業化に向けた検討を行います。また、必要に応じて、先進地調査、県内調査等を行います。

(2) フォローアップ検討会の実施

県の既存事業等に政策提案を反映することとなった場合、政策を提案した県内大学生グループと県職員で意見交換を行うフォローアップ検討会を実施します。

(8月下旬～)

5 事業の実施

(1) 県による事業実施

次年度に予算化された新規事業について県が大学等と協働・連携して実施します。

なお、大学等との協働・連携の手法(例えば、県が大学等と委託契約を締結して事業を実施するなど)については、県担当部局が予算要求を行う時点で、県担当部局と大学等で協議します。

(2) 県内大学生の事業参加

政策提案いただいた県内大学生は、次年度に県が新規事業を実施する際に参加・参画いただきます。(公開コンペで表彰された政策提案のうち、一定の基準を超えた政策提案が事業化の対象となりますので、対象となった場合、事業化に向けたプロジェクトチームに参加及び次年度の事業実施に参加・参画いただくことが応募の要件です。)

※政策提案した県内大学生のうち、学校行事等の都合で十分に事業実施に参加・参画できない者がいる場合は、県内大学生が在籍する大学等の同一学科、研究室、ゼミ等の学生が参加することができます。また、事業の性質上、他大学の協力を得て事業を実施する場合は、他大学の学生が参加することができます。

※県の既存事業等に政策提案が反映された場合については、必ずしも提案大学生が事業実施に参加・参画いただく必要はありませんが、県担当部局が予算要求を行う時点で提案大学生も参加することが望ましいと判断した場合には、県担当部局と大学で別途協議いただきます。

6 スケジュール(予定)

<令和3年度>

4月9日～6月11日 募集期間

6月中旬 事前審査(書類選考)

6月下旬 事前審査結果通知

7月中旬 県の担当部局との個別相談会

8月下旬 本審査(公開コンペ方式による選考)・表彰、本審査結果通知

8月下旬～ 事業化PTでの検討、フォローアップ検討会

10月上旬 次年度予算要求

3月下旬 次年度当初予算承認

<令和4年度>

4月～ 県と大学等の協働・連携のもと事業実施
県内大学生による事業への参加・参画

7 情報公開

- (1) 県内大学生グループから提出いただいた応募書類(様式1、様式2及び様式3)のうち、個人情報を除くすべての情報は情報公開の対象となります。
- (2) 提案いただいた県内大学生グループについて、在籍する大学等の名称、代表者の学部・学科・学年及び氏名、政策提案の名称及び概要は公表します。
- (3) 本審査に参加いただく県内大学生グループについては、グループメンバーの学部・学科・学年及び氏名を公表します。
- (4) 事前審査、本審査の結果の概要は公表します。

8 個人情報

事業実施で収集した個人情報について、事業実施以外の目的には使用しません。

9 その他

- (1) 応募に要する費用及び個別相談会、公開コンペ、フォローアップ検討会に参加するための交通費は自己負担となります。
- (2) PTでの検討に要する費用(県内調査及び県外先進地調査のための交通費、PT出席のための交通費並びにボランティア活動保険料等)は、県が負担します。
- (3) 平成24年度から令和元年度までに最優秀賞・優秀賞を受賞した政策提案については、添付資料のとおりです。(令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止)
- (4) 個別相談会、公開コンペ及びフォローアップ検討会の実施にあたっては、マスク着用、検温実施等の新型コロナウイルス感染症対策を行います。
- (5) 新型コロナウイルス感染症の状況によっては、開催を延期または中止等する場合があります。(その場合、別途お知らせします。)

< 別 紙 > 県が県内大学生からの政策提案を特に希望する政策課題

No.	特に希望する 政策課題	「奈良新『都』 づくり戦略20 21」に該当す る政策課題	政策課題の概要
1	自転車の安全 利用の推進に ついて	魅力ある観光 地づくり	<p>令和元年10月15日に「自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」が公布され、また、令和2年4月1日から自転車損害賠償責任保険等の加入義務化と65歳以上の高齢者の乗車用ヘルメットの着用の努力義務化が始まった。</p> <p>そこで、自転車損害賠償責任保険等の加入率及び65歳以上の高齢者のヘルメットの着用率を上げるための効果的な取組について提案いただきたい。</p> <p>また、近年、いわゆる「ながら運転」等のマナー違反が多く発生していることから、自転車の安全で適正な利用を促進するため、自転車の利用に係る交通マナーを高める方法や交通安全教育の活性化についてもあわせて提案いただきたい。</p>
2	なら歴史芸術 文化村を活用 した取組につい て	文化の振興	<p>令和4年3月のオープンを目指し、奈良県の歴史文化資源の活用と芸術文化活動の振興の拠点として整備を進めている「なら歴史芸術文化村」には、文化財修復・展示棟、芸術文化体験棟（ホール（約300名収容）、セミナールームなど）、交流にぎわい棟（調理実習室など）、情報発信棟、屋外体験ゾーンがあります。このホールやセミナールーム、調理実習室等を活用し、地域の文化に対する理解と関心を増進し、郷土の誇りと愛情を醸成する取組について提案いただきたい。</p>

3	<p>災害ボランティア活動への若者の積極的参加のための効果的な取組</p>	<p>「安全安心な地域」づくり</p>	<p>近年、大規模自然災害が相次いでおり、令和元年台風第19号災害においても、災害ボランティア派遣のため、県と県社会福祉協議会が共同で災害ボランティアバスを3便運行した。災害ボランティアバス参加者にアンケート調査を実施したところ、若い世代の参加を望む声が多く寄せられた。さらに、令和2年7月豪雨災害では、新型コロナウイルス拡大防止のため、地元中心の被災者支援が展開され、地域内共助が今まで以上に重要になってきている。</p> <p>そこで、県内の若者が災害ボランティア活動に参加したくなる、参加しやすくなる、平時からの情報発信の方法や効果的な取り組みについて提案いただきたい。</p> <p>※令和3年度より、若年層の災害ボランティア登録増加に向けた養成講座等を開催する予定。</p> <p>(1) 災害ボランティア特別授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校や高校で特別授業を開催し、災害ボランティア活動参加への意識づけを図る。 <p>(2) 災害ボランティア入門セミナー・交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青年層（大学生～40歳未満）を対象に入門セミナーを開催し、災害ボランティアの即戦力養成を図る。 ・入門セミナー受講者と、現災害ボランティア登録者との交流会を開催し、災害ボランティア登録者の増加や、活動者のネットワーク化を図る。
4	<p>子供たち(小学生以下)が楽しみながら身体を動かすことで、基礎体力の向上を図るとともに、生涯にわたり運動やスポーツを楽しむための効果的な取組</p>	<p>だれでもいつでもどこでもスポーツできる環境づくり</p>	<p>近年、全国的に子どもの運動不足に伴う体力低下が危惧されている。また、運動・スポーツの習慣化の定着のためには、幼児期や学童期から体を動かす楽しさ・喜びを経験することが重要とされている。そこで、リアルとバーチャルの組み合わせ等、コロナ禍でも実現可能で、かつ、子どもたちに運動やスポーツへの興味・関心を高めるための効果的な取組について提案いただきたい。</p>

5	ジェンダー平等を実現するための効果的な取組	女性活躍の推進	<p>国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標の1つである「ジェンダー平等」は、国際社会において極めて重要と認識されているものの、日本のジェンダーギャップ指数のランキングは153カ国中121位と低く遅れをとっている。その背景には人々の中に「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という固定的性別役割分担意識が根強いことがあり、とくに奈良県は全国よりその意識が高いことが課題となっている。</p> <p>県の調査では、若い世代になるほどこの意識は薄い傾向にあり、また、男女の地位の平等感は、「学校教育の場」「大学等への進学」においては、男女平等と回答した人が過半数であるのに対し、「職場」においては「男性が優遇されている」と回答した人が過半数であった。</p> <p>このことを踏まえ、若い世代の意識が社会全体を変える力につながるよう、どのような取組をすれば、ジェンダー平等の実現、女性が活躍できる社会づくりにつながるかを提案いただきたい。</p>
6	奈良県の少子化をストップさせるための取組	地域で子どもを健やかに育てる	<p>出生数及び合計特殊出生率は、奈良県、全国ともに1970年代の第2次ベビーブーム期以降長期的に低下傾向であり、奈良県の出生数は1970年代半ばには約2万人であったが、2019年の出生数は8,323人となっており、奈良県の合計特殊出生率（一人の女性が一生の間に生む子どもの数）は1970年に2.08であったが、2019年は1.31となっている。</p> <p>若者が子どもを持つことに希望を持ち、少子化を止めるための効果的な取組について提案いただきたい。</p>
7	奈良県における高齢運転者の交通事故を防止するための効果的な取組	健康寿命日本一を目指した健康づくり	<p>県内の運転免許保有者に占める65歳以上の高齢者の割合は、年々増加しており、これに伴って全交通事故に占める高齢者の交通事故の割合も増加傾向にある。また、近年加齢に伴う身体機能の低下等が影響したとみられる交通事故やブレーキペダルとアクセルペダルの踏み間違いによる交通事故等が全国的に発生している。一方、人口減少や過疎化が進む中、小売店舗等の撤退や公共交通の縮小などで、高齢者にとって自動車の運転が生活に欠かせない地域も存在している現状がある。</p> <p>そこで、高齢運転者の状況に応じた、交通事故防止</p>

			のための効果的な取組について提案いただきたい。
8	高齢者の特殊詐欺被害防止のための「固定電話機対策」を浸透させるために効果的な対策	健康寿命日本一を目指した健康づくり	<p>特殊詐欺被害の大半は、高齢者方の固定電話機に犯人が電話をかけている。</p> <p>電話に出ると騙されるリスクが高いことから、不審な電話に出ないことが重要であり、具体的には以下の対策が効果的であると考えられている。</p> <p>①固定電話機を「迷惑電話防止機能付き電話機」に替える</p> <p>②在宅中も留守番電話にし、知らない相手からの電話には出ない</p> <p>③ナンバーディスプレイを導入し、登録外の番号からの電話には出ない</p> <p>しかしながら、警察庁や県警が行ったアンケート調査からは、多くの高齢者は「自分は詐欺被害に遭わない」と認識していることがわかっており、自主的な詐欺対策を講じるモチベーションに乏しいことから、固定電話機対策が浸透しない現状にある。</p> <p>以上を踏まえ、高齢者に「固定電話機対策」を浸透させるための効果的な取組について提案いただきたい。</p>

※政策提案の募集にあたって、上記の8項目に制限しているわけではありません。

「2(2)募集内容」にも記載しているとおり、奈良新「都」づくり戦略2021(令和3年2月発行)に掲載されている県の政策課題からもヒントを得ていただき、学生の皆さんならではの視点と専門知識が生かされた政策提案をお待ちしています。

① 令和元年度に受賞した政策提案

	政策提案の名称等	政策提案の概要
最 優 秀 賞	<p>○政策提案の名称 規格外果実を規格外のお土産に</p> <p>○在籍する大学等の名称 近畿大学</p> <p>○農学部応用生命化学科4年 松尾 啓史</p>	<p>柿は、奈良県が全国生産量2位であり、特産品の一つであるが、相当数が「規格外果実」として市場に出回っていない。そのため、奈良県及び近畿大学では、このような柿の産業的な利用を目指し、柿ワインの研究開発が行われている。我々は、柿ワインの醸造の際に除去される酒粕に着目した。規格外果実として出荷されていない柿由来の酒粕を用いて奈良県独自の特産品を開発することで、農産物の振興につなげるとともに、新たな奈良の特産品として県を観光地として活気づけることを目指す。</p>
優 秀 賞	<p>○政策提案の名称 和歌発祥の奈良で現代の「短歌を詠む」文化継承を大学生の手で</p> <p>○在籍する大学等の名称 奈良大学</p> <p>○グループ代表者 文学部文化財学科3年 小江 陽南子</p>	<p>奈良は文学表現としての和歌の発祥地であるにもかかわらず、現代社会では「短歌を詠むこと」への関心は薄れ、短歌祭や歌会は参加者の減少と高齢化が課題である。万葉集等の古典鑑賞がブームであるが、古代より「自己表現の手法」であった短歌の本来の魅力を認識し直すために、大学生が自作の短歌を発表し合う短歌祭や歌会を開催する。それにより奈良の様々な地域のあらゆる世代に自然に「短歌を詠むこと」を定着させ、日本の伝統文化を現代の言葉で表現する短歌を通じて、地域文化を活性化することが本事業の目的である。</p>
優 秀 賞	<p>○政策提案の名称 在来作物を用いた農山村の活性化</p> <p>○在籍する大学等の名称 近畿大学</p> <p>○グループ代表者 農学部環境管理学科4年 文 賀紀</p>	<p>大和高原地域には、モロコシ、アワ、キビ等の雑穀類に代表される、様々な在来作物が現在でも細々と栽培されている。本事業では、こうした消滅の危機に瀕している貴重な地域資源としての雑穀に注目し、耕作放棄地を利用した、モロコシ、アワ、キビ等の生産拡大を目指す。近隣の都市住民が日帰り農業体験等で雑穀栽培に携わることが出来るような仕組みをつくるとともに、収穫物の販路を確保するため、地域の福祉作業所等と連携して雑穀の加工品を開発する。</p>

② 平成30年度に受賞した政策提案

	政策提案の名称等	政策提案の概要
最優秀賞	<p>○政策提案の名称 奈良・スタディサイクリング ー 自転車をを用いた体験学習型地域振興ー</p> <p>○在籍する大学等の名称 奈良県立大学</p> <p>○地域創造学部地域創造学科2年 天野 光生</p>	<p>現在、県南部東部地域の人口減少・過疎化問題は深刻な問題となっているため、頻繁に地域を訪れてもらえる、住み続けられる、活気のある地域をつくることが求められている。そこで、本プロジェクトでは「交流人口の増加」をもたらすために、サイクルツーリズムの運営・企画を提案。まずは、青少年を対象として、自転車を利用した宿泊型学習ツアーを実施する。さらに、観光客を対象とした日帰り型のサイクルツーリズムの運営も行う。</p>
優秀賞	<p>○政策提案の名称 交換留学 ならto奈良 ～次世代に繋がる、北部・南部の小学生の交流と魅力発信～</p> <p>○在籍する大学等の名称 奈良教育大学</p> <p>○グループ代表者 教育学部教科教育専攻数学教育専修 1年 尾崎 優真</p>	<p>奈良県の北部と南部の小学生同士の短期交換留学・プレゼンテーションを通して、北部・南部両方の魅力を知り、小学生がそれを発信する経験・力を得ることで自分の住む地域を外に発信できる次世代の人材の育成を目指す。それに伴い、小学生の言語能力・主体的に学ぶ姿勢の育成、県内の人口流出の減少、南部への訪問の増加と南部の発展・活性化、奈良県に対する愛着度、奈良県に住み続けたい・もし出ても戻ってきたいと考える人の増加も目指す。</p>
優秀賞	<p>○政策提案の名称 これが僕らのまち図鑑</p> <p>○在籍する大学等の名称 畿央大学</p> <p>○グループ代表者 健康科学部人間環境デザイン学科3年 阿草 憲蔵</p>	<p>既存の小学生の総合学習の時間を利用して、大学生と共に、まち歩きや地元の住民へのヒアリングを行い、小学生の視点でのA1版のプレゼンテーションボードを作成し、それらを集めてその地域の「これが僕らのまち図鑑」を作成する。図鑑の内容は、地域独自の文化や風習、子ども達の好きな遊びの今昔比較や子ども目線の素朴な地域の疑問まで、子どもの感性を基点にまとめる。完成した「これが僕らのまち図鑑」は地域のイベントの一幕など、地域住民に向けて発表し、その縮小版をパンフレットやインターネット上のサイト等で公開し、地域住民のほか、移住検討者にも魅力をPRできる機会となる。「これが僕らのまち図鑑」に関わるすべての人のこころにシビックプライドが醸成されることを期待する。</p>

③ 平成29年度に受賞した政策提案

	政策提案の名称等	政策提案の概要
最優秀賞	<p>○政策提案の名称 学んで守ろう僕らの森—中高大連携 森林学習プロジェクト</p> <p>○在籍する大学等の名称 近畿大学</p> <p>○グループ代表者 農学部環境管理学科3年 奥芝 理那</p>	<p>奈良県土のおよそ8割は森林で覆われており、林業は奈良県の重要産業の一つである。森林のもつ多面的かつ公益的機能と、森林環境の管理・保全における林業の役割を理解することは、持続可能な森林環境の管理・保全体系構築のための基礎となる。本プロジェクトは、専門知識をもつ大学生が中高校生を対象とした段階別森林学習プログラムを開発し、ボランティアを動員して大学生自ら実施することで、全学習年代をカバーする森林教育システムを構築し、森林の管理・保全と林業振興のための県民の意識醸成と理解向上を実現する。</p>
優秀賞	<p>○政策提案の名称 小学生を対象としたパラリンピック教育プロジェクト</p> <p>○在籍する大学等の名称 奈良教育大学</p> <p>○グループ代表者 教育学部教科教育専攻保健体育専修3年次 小田 陽介</p>	<p>2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催される。本事業は、特にパラリンピックを取り上げ、奈良県の小学生にその魅力や価値を教えることを目指すものである。児童がパラリンピック種目を実際に体験するとともに、車いすバスケットボールの試合を観戦し、選手による講話を聞く。これによってパラリンピックについての理解を深め、スポーツとしての価値を学ぶことができる。こうしたパラリンピック教育を通して、インクルーシブで多様性のある社会の実現につなげたい。</p>
優秀賞	<p>○政策提案の名称 留学生による奈良の旧正月フェスティバル</p> <p>○在籍する大学等の名称 奈良女子大学</p> <p>○グループ代表者 大学院人間文化研究科博士後期課程社会生活環境学専攻1年 林 君嶸</p>	<p>本事業は奈良県の冬季オフシーズンの観光課題に向け、留学生の視点から外国人観光客の誘致を図る。アジアでは旧正月・春節を祝う国・地域が多く、訪日観光客も多い。しかし、その時期、日本ではお正月行事が行われていない。そこで、各国・地域の旧正月休暇に訪日した外国人観光客を対象に、日本・奈良のお正月文化を体験する機会を創り、オフシーズンの外国人観光客増加を寄与する。また、奈良の留学生や外国人在住者が本事業に参加することで日本・奈良の魅力や伝統的なお正月文化を学ぶ。</p>

④ 平成28年度に受賞した政策提案

	政策提案の名称等	政策提案の概要
最優秀賞	<p>○政策提案の名称 農地の窓口</p> <p>○在籍する大学等の名称 近畿大学</p> <p>○グループ代表者 農学部農業生産科学科3年 中井 隆教</p>	<p>奈良県では農業、高齢者、雇用等の課題がある。本政策提案はこの三つの課題に重点を置き「農地の窓口」を提案する。農地の窓口は、耕作放棄地を利用して学生、奈良県、企業が共同で50代から60代の年配者に、無理なく健康的に農業を行ってもらうためのサービスを行うものである。また本政策を通して建築・土木等の企業の農業参入へのハードルを下げる。また、農学系学生等の農に関連する職業人としての意識を高める。</p>
優秀賞	<p>○政策提案の名称 Sight Feeling NARA 感じてみつけ！ あなたの奈良 魅力再発見プロジェクト</p> <p>○在籍する大学等の名称 奈良女子大学</p> <p>○グループ代表者 大学院人間文化研究科住環境学専攻1年 金村 麗華</p>	<p>奈良は本物の歴史に身近に接することができる数少ない地域である。しかし、障がい者や高齢者も楽しめる観光地整備は十分とは言えない。</p> <p>本事業は、障がい者の「体感」による観光を新たな観光手法として着目し、従来の見る観光“sightseeing”を体感する観光“Sight Feeling”に転換する。奈良の歴史的価値を体感し、新たな楽しみや魅力を掘り起こす地図の作製と情報発信を行う。このより多くの人を楽しめる観光の提案により、奈良の観光客増加も期待できる。</p>
優秀賞	<p>○政策提案の名称 女子大塾 ～女子大生による県南部学習支援～</p> <p>○在籍する大学等の名称 奈良女子大学</p> <p>○グループ代表者 生活環境学部住環境学科4回生 小澤 初葵</p>	<p>奈良県では、これまで県内の過疎地域における様々な活性化事業を行ってきたが、小・中学校の教育に関しては十分に対策を講じていないといえる。そこで、南部地域の子どもたちが地域格差を受けず学習機会を得るために、女子大生が小・中学生向けに県南部地域で塾を開くことを提案する。周辺に大学・高校の無い地域に大学生が入り地域の子どもと接することで、子どもたちに新しい体験を生むとともに、過疎地域におけるこれからの教育を考える新たな機会を創出する。</p>

⑤ 平成27年度に受賞した政策提案

	政策提案の名称等	政策提案の概要
最優秀賞	<p>○政策提案の名称 緊急課題！奈良の将来の医療をつくる多職種医療学生の集い</p> <p>○在籍する大学等の名称 奈良県立医科大学</p> <p>○グループ代表者 医学部医学科6年 峯 昌啓</p>	<p>これからの日本は高齢者が最期をむかえるのに在宅医療の役割がますます重要になってくる。しかし現場では在宅をささえる医療者と介護職との間の連携がうまくとりづらい現状がある。</p> <p>将来の多職種間の連携を実践するために、県内の医療系学生、介護福祉系学生を大学横断的に集め、①同じテーブルで医療の問題を語りあいながら、お互いのバックグラウンドを理解しあう、②在宅医療のプロの声を聞き、在宅をキャリアパスとして考える、③国内外の人事交流を通して将来の医療を考えるうえでの知見を広げるような枠組みをつくる。</p>
最優秀賞	<p>○政策提案の名称 女子大生ハンティングサークル(狩りガール)</p> <p>○在籍する大学等の名称 奈良女子大学</p> <p>○グループ代表者 大学院人間文化研究科博士前期課程住環境学専攻1年 竹村 優希</p>	<p>奈良県南部地域の狩猟産業振興を目指し、女子大生が狩猟に挑戦する。事業を通して県内の大学に通う若い女性が狩猟の基礎を学び、また南部地域の人々と交流を深めることで、地域の活性化にも取り組む。大きな目標は狩猟を女性の就労先に位置づけ、地場産業としての狩猟を次世代に継承していくことにあるが、ジビエのレシピ提案や地元食材を活用した地元宿泊施設の活性化、さらには地域の情報発信、狩猟マップの作成なども含めて、総合的に事業を推進していく。</p>
優秀賞	<p>○政策提案の名称 不登校の子どもたちに大学生ができること～大学間の垣根を越えて～</p> <p>○在籍する大学等の名称 帝塚山大学</p> <p>○グループ代表者 大学院心理科学研究科心理科学専攻2年 酒井 希恵</p>	<p>奈良県では、小中学校における不登校の割合が全国平均を上回る状態が続いている。本提案では、不登校を減らすために、学生ボランティアの効果的な活用を提言するものである。</p> <p>具体的には、各自治体と学生のニーズとをうまくマッチングさせる仕組みをつくり、研修会や大学の垣根を越えた交流会などを実施して優秀なボランティアの育成を目指す。そして、シンポジウムなどを通して、県民のボランティアについての関心を高めてもらう。</p>
優秀賞	<p>○政策提案の名称 かえろうら！十津川～空き家のDIY改修&活用プロジェクト～</p> <p>○在籍する大学等の名称 奈良女子大学 奈良県立大学</p> <p>○グループ代表者 奈良女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程住環境学専攻1年 森 里沙</p>	<p>奈良県南部地域は、急速な人口減少と空き家の増加という課題を抱えている。そこで本事業では、将来的な南部地域への移住促進を目指して、大学生を対象とした宿泊型のワークショップを提案する。空き家を対象とした「DIY体験」と南部地域での「農村暮らし体験」を組み合わせたWSを一年に数回行い、年間で一軒を目標として空き家を改修し活用することで交流人口の増加や住環境の改善をはかる。また、農村暮らし体験を通じて、将来的な移住者の獲得も目指す。</p>

⑥ 平成26年度に受賞した政策提案

	政策提案の名称等	政策提案の概要
最優秀賞	<p>○政策提案の名称 楽しく健康！健楽(けんぎょう)農業で遊休地を有効活用</p> <p>○在籍する大学等の名称 奈良女子大学</p> <p>○グループ代表者 大学院人間文化研究科住環境学専攻1年生 土佐野 美裕</p>	<p>第一次産業を軸に、奈良県内の遊休農地、遊休地とその地域の労働力の有効活用を図る。近年、高齢者・若者の農業への関心が高まっており、市民農園参加者も増えている。その一方で、農業は就労者の高齢化・後継者不足により耕作放棄地が増えている。</p> <p>この事業では、高齢者や若者の農業への興味や意欲を労働力として捉え、遊休農地、遊休地を利用しつつ、補助金に依存しないビジネスモデルを創ることを提案する。</p> <p>また、学生が参加することによって、農業に対する新しい働き方、栽培・販売の新たな方法を提案する。</p>
優秀賞	<p>○政策提案の名称 無病促菜 ～野菜パワーで元気 100%な奈良県へ！～</p> <p>○在籍する大学等の名称 帝塚山大学</p> <p>○グループ代表者 現代生活学部食物栄養学科3回生 高瀬 美桜</p>	<p>奈良県民の野菜摂取量は全国的に見ても少ない。全世代で野菜摂取量を増加できるように、中高生を対象にした出張事業や主婦・一人暮らしの人に向けた食育サイトの設置、働く世代・学生に向けた食環境の整備といった事業を行い、県民一人ひとりの健康への意識を高め、奈良県の野菜摂取量を1日300g以上にし、長期的には1日350g以上を目指す。</p> <p>また、1世帯当たりの消費支出額が高いことから県民の消費意欲は高いと推察されるが、県内の商品購入にはつながっていない。これを野菜摂取量の増加を目指す事業の中で解消していき、経済の活性化に繋げる。</p>
優秀賞	<p>○政策提案の名称 奈良栄養クリニック設立計画</p> <p>○在籍する大学等の名称 奈良女子大学</p> <p>○グループ代表者 生活環境学部食物栄養学科4年 祝迫 景子</p>	<p>県民の半数以上が健康に対する不安や生活習慣病を抱えている。生活習慣病は食生活との関連が深いいため、問題背景として適切な食に関する知識や指導の不足が推測される。</p> <p>そこで、住民の健康への不安の軽減や健康寿命の延長に貢献するため、奈良栄養クリニック設立を提案する。専任となる管理栄養士ポストを設け、サポートスタッフとして食生活改善推進協議会員や栄養士・管理栄養士過程のボランティア学生を活用し、栄養相談、栄養教室、県内市町村の健康増進企画への協力、県内企業とのメニューの共同開発、認知症予防教室等を行いながら、施策を拡充していく。</p>
優秀賞	<p>○政策提案の名称 萃点を灯す －春日奥山から未来への文化継承の地</p> <p>○在籍する大学等の名称 奈良女子大学</p> <p>○グループ代表者 大学院人間文化研究科住環境学専攻2年生 大石 菜由佳</p>	<p>春日山原生林－ここは奈良・春日大社の奥山であり、敏に隣接した世界的にも稀な原生林帯である。この場における人間と自然との関係は、様々な信仰を始原とした文化の定着によって1300年以上の間支えられてきたが、世界遺産や都市公園、天然記念物といった制度的な枠組みによる「凍結的な保護」がなされているのが現状である。</p> <p>本提案は広大な人工林が形成されてきた歴史的経緯をふまえたうえで、自然と信仰に関わる伝統文化のあり方を、環境の「擬態的な循環」の再生を通して現代社会に定位する試みである。</p>

⑦ 平成25年度に受賞した政策提案

	政策提案の名称等	政策提案の概要
最優賞	<p>○政策提案の名称 科学の旅－シーズンフリーのワンストップサイエンスツーリズム－</p> <p>○在籍する大学等の名称 奈良教育大学</p> <p>○グループ代表者 教育学部学校教員養成課程理数生活学科コース4回生 萩 奈津希</p>	<p>小中学校の修学旅行生を大学にワンストップさせて奈良を学ぶ「科学の旅」、つまり、教育県・奈良なら出来る・奈良しかできない学びのツアーを提案する。大学の高度な専門性と学生という人材を最大限に利用して、修学旅行で来県する児童生徒にワクワクする学びの刺激を与え、「また奈良に行きたい！」と思わせる奈良を科学する旅を提供する。</p> <p>本提案では、従来にない方法や角度から奈良の魅力を発信することによって、修学旅行生と奈良ファンの増加を目指す。</p>
優秀賞	<p>○政策提案の名称 自然の恵みリスタート事業</p> <p>○在籍する大学等の名称 奈良女子大学</p> <p>○グループ代表者 大学院人間文化研究科博士前期課程1年住環境学専攻 濱川 真衣</p>	<p>20歳前後の女子大生の感性で、奈良県南部地域の魅力を再評価し、今まで観光資源として位置づけられていなかったものも含めて南部地域の観光資源をまとめ直す。</p> <p>埋もれている観光資源を発掘し、改善方法などを地元住民と学生とで協同して考えることで、観光資源としての顕在化を図る。</p> <p>学生の感覚で観光情報の発信方法を検討し、同世代に対して効果的な方法で南部地域の観光情報を拡散させる。</p>
優秀賞	<p>○政策提案の名称 大学生がつくる幼児のためのスポーツイベント</p> <p>○在籍する大学等の名称 奈良教育大学</p> <p>○グループ代表者 教育学部保健体育専修3回生 赤木 誠五</p>	<p>現在、奈良県が抱える問題の一つとして子どもの体力不足が挙げられる。そこで本政策では、幼児が運動遊びの楽しさを体験することで運動習慣を持つようになり、将来的に熱心にスポーツに取り組み、奈良県の子どもの体力向上に繋げるためのきっかけづくりを行う。</p> <p>奈良県に在住している幼児(4～6歳程度)及びその保護者を対象にし、奈良県立橿原公苑などの体育施設で、様々な種目が体験できるスポーツイベントを実施する。イベントの運営は幼児分野、体育分野、保健分野を専攻している県内大学生が中心となっていく。実施種目は幼児ができる簡単なスポーツ(ボール運動、マット運動、陸上運動など)とする。</p>

⑧ 平成24年度に受賞した政策提案

	政策提案の名称等	政策提案の概要
最優賞	<p>○政策提案の名称 泊ってみ奈良？ ー町屋ステイで奈良を知るー</p> <p>○在籍する大学等の名称 奈良県立大学</p> <p>○グループ代表者 地域創造学部1年 横田 紘大</p>	<p>私達は奈良の「素朴で落ち着いた個性」に着目し、観光客が体で感じる奈良を体験できるような取り組みとして本政策を提案したいと考える。内容としては、県が町屋を買い取り、県・大学生・地域住民・専門家並びに教員などの連携により宿泊施設化、その上で学生インターンシップの活用により、学生自身が施設運営を進め、宿泊客へ様々な観光サービスを提供することである。町屋の宿泊施設化で、今奈良に多くみられる高級旅館と格安ビジネスホテルの間に位置するような、観光客が気軽に立ち寄ることができ、かつ奈良の風情を感じられる宿泊施設の実現を目指す。</p> <p>また、学生を中心に運営するため、安価でのサービス提供の実現や、心地よい空間づくり、インターンシップの充実にもつながると考えられる。目標は、多くの観光客に奈良で宿泊してもらい、泊ってみてわかる奈良のよさを知ってもらい、奈良の個性を体で感じてもらうことである。</p> <p>また、この取り組みを通じて、地域住民同士が関わり合い、絆を再確認することを目指す。さらに、観光庁等が行う宿泊者数ランキングの上昇、町屋が立地するならまちエリアのさらなる経済効果拡大を図る。</p>
優秀賞	<p>○政策提案の名称 奈良県産材製の児童用学習机・椅子・教卓の普及</p> <p>○在籍する大学等の名称 奈良女子大学</p> <p>○グループ代表者 生活環境学部住環境学科4回生 笹川 祐里</p>	<p>奈良県南部の主要産業である林業と製材業の振興のために、平成20年度から奈良女子大学生生活環境学部中山研究室と桜井木材協同組合青年経営者協議会が共同で開発、製作、普及を進めている奈良県産材製児童用学習机・椅子及び、企画開発予定の教卓や木製ロッカー・下足箱などをH26年～H31年の6年間で奈良県下公立小学校に100%普及させる政策を提案します。</p> <p>県下公立小学校生徒全員分の児童用学習机・椅子を、県産材を使い県下で製作する体制を整えることは、県内における木材の地産地消システムの整備であり、県産材に毎年一定の需要を生み、林業を基幹産業とする県南部の経済・雇用に与える効果が期待できます。</p> <p>また、小学校への導入することで総合教育への応用も可能であり、小学生とその保護者たちの木材に対する愛情を育み、奈良県の主要産業の1つが林業であるという認識の向上に繋がります。</p>
優秀賞	<p>○政策提案の名称 Meet 20s' 絆 プロジェクトー20歳の若者の出会いで絆をつくる</p> <p>○在籍する大学等の名称 帝塚山大学</p> <p>○グループ代表者 経営情報学部経営情報学科3年 森崎 直人</p>	<p>大学生の視点から見た奈良の魅力を、同世代の若者がよく利用するツールで伝え、奈良に多くの若者が訪れる機会をつくる。すでに構築された熟年観光客層に加え、近隣などから奈良を訪れる若者や低年齢の子供をもつファミリーの来訪者層を構築する。コンテンツは奈良の奥深い良さを理解できるようにする。</p> <p>具体的な提案は次の5つの内容である。1. 大学生が奈良の魅力スポットのおすすめマップを作成→2. スポットに、アプリとその場所でだけ会えるアニメキャラクターを配置→3. そこでイベントを企画し、数百万人の登録者をもつ位置ゲームなどの企業と提携・発信→4. 来訪者には、そのアニメキャラクターがコンシェルジュとして説明し、奈良の奥深い良さやおもてなしの心を伝達→5. その情報が、SNSやTwitterなどを介してさらなる情報発信</p> <p>アニメキャラクターのみやアプリの成功事例はあるが、行政がゲーミフィケーションとの連携の事例はない。</p>

令和3年度「県内大学生が創る奈良の未来事業」
政策提案書

令和3年 月 日

奈良県知事殿

提案者

在籍する大学等の所在地

在籍する大学等の名称

<学生の代表者>

学部・学科・学年

氏名

次のとおり、関係書類(様式2、様式3)を添付して、政策を提案します。

<p>政策提案の 名称</p>	<p>※政策提案の内容や目的がわかる簡潔なタイトルにしてください。</p>
<p>政策提案の 概要</p>	<p>※政策提案の概要を200字程度にまとめてください。</p>
<p>提案内容の 政策課題の 区分</p>	<p>提案内容について、「奈良新『都』づくり戦略2021」のうち該当する政策課題に○をつけてください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1. 地域経済活性化 2. 地域雇用戦略 3. 滞在型観光の定着 4. 魅力ある観光地づくり 5. 魅力向上・発信 6. 「安全安心な地域」づくり 7. 「きれいな奈良県」づくり 8. 暮らしやすいまちづくり 9. 地域で子どもを健やかに育てる 10. 女性活躍の推進 11. 脱炭素時代のエネルギー政策 12. 道路整備 13. 鉄道整備 14. バス輸送環境整備 15. 健康寿命日本一を目指した健康づくり 16. 地域医療の総合マネジメント・地域包括ケアの充実 17. 福祉の充実 18. だれでもいつでもどこでもスポーツできる環境づくり 19. 教育の振興 20. 文化の振興 21. 海外との交流展開 22. 農業・農地・農村・食と農の振興 23. 畜産・水産業振興 24. 森林環境管理・林業振興 25. 南部・東部の振興 26. 奈良モデルの実行 27. 行政マネジメント 28. 財政マネジメント</p> </div>

上記政策提案のとおり、提案者が、令和3年度「県内大学生が創る奈良の未来事業」に応募することに同意します。

令和3年 月 日

<指導教官>

学部・学科

職・氏名

令和3年度 県内大学生が創る奈良の未来事業
提案者等調書

令和3年 月 日

<政策提案の名称: >

代表者	学部・学科・学年		
	氏名(ふりがな)		
	連絡先住所	〒	
	連絡先電話		
	連絡先メールアドレス	※携帯電話のメールアドレス以外でお願いします。	
グループ メンバー	No	学部・学科・学年	氏名(ふりがな)
	1(代表者)		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
指導教官	学部・学科		
	職・氏名		
	連絡先住所	〒	
	連絡先電話		
	連絡先メールアドレス	※携帯電話のメールアドレス以外でお願いします。	
	研究分野		

令和3年度 県内大学生が創る奈良の未来事業
政策提案企画書

令和3年 月 日

<政策提案の名称: _____>

1 課題概要:

※奈良県において課題となっている事項を記入してください

2 現状分析:

※課題となっている事柄に対する県民のニーズ等、奈良県の現状を分析し、記入してください。

※県民のニーズについては「県民アンケート」(県 HP: <http://www.pref.nara.jp/15126.htm>)を参照してください。

3 達成目標:

※提案する政策の目的、また、政策を実施することにより達成しようとする目標を記入してください。

※できるだけ、数値目標の設定をお願いします。数値目標については、「2(2)募集内容」に記載の「奈良新『都』づくり戦略2021」(県HP: <http://www.pref.nara.jp/16382.htm>)を参照してください。

4 政策提案の内容:

※提案する政策の具体的な内容を記入してください。(実施目的、実施内容、実施場所等)

※提案する政策は県が取り組むべき新たな課題の解決にどのようにつながるかを記入してください。

5 期待される効果、発展性・継続性:

※提案する政策を実施することにより、どのような効果が期待できるかを記入してください。

また、その政策を将来的にどのように発展、継続させていくかを記入してください。

6 実現可能性:

(1)実施方法

※県と大学との協働・連携の方法をはじめとして、提案内容に関連する各機関との協働・連携について、提案する政策をどのように実施するかを具体的に記入してください。

※提案する政策を実施する際、県内大学生が有する専門的な知識をどのように生かし、県内大学生(提案グループ以外の県内大学生を含む)がどのように参加するかを記入してください。

(2)実施計画

※提案する政策を次年度に実施する際の計画を具体的に記入してください。

<令和4年度>

実施内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実施内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月

※様式3「政策提案企画書」は簡潔に記入し、5ページ以内にまとめてください。